

日高村の医療救護の目指す姿 南海トラフ地震(L1)、夏の昼12時に発生したと想定

日高村災害対策本部福祉部は、**村内唯一の診療所と薬局を核とした医療救護所を設置**し、診療所の医師の医学的助言を受け、村内の人や物を総動員した官民協働の総力戦による医療救護活動の総合調整を行ないます。

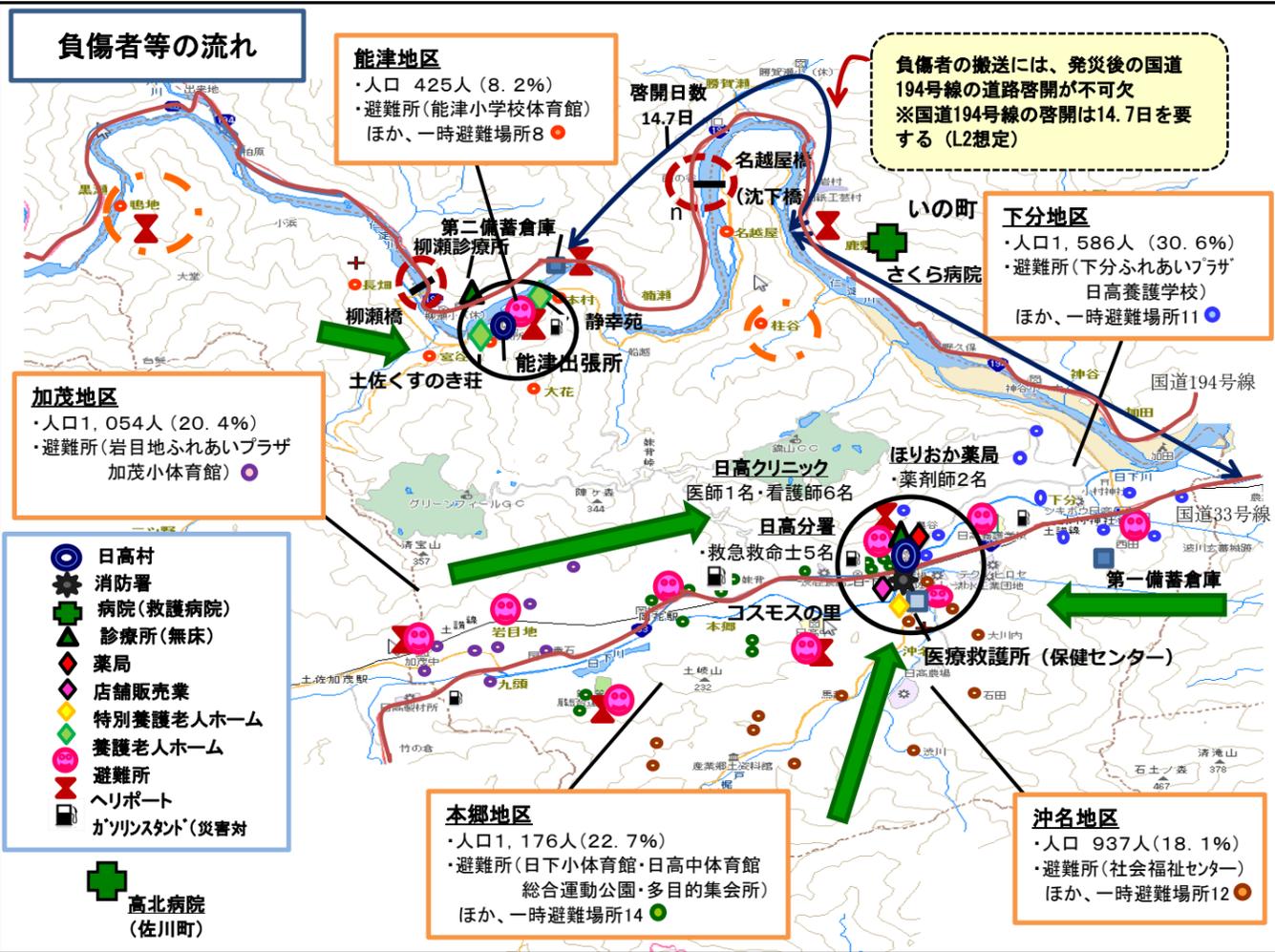
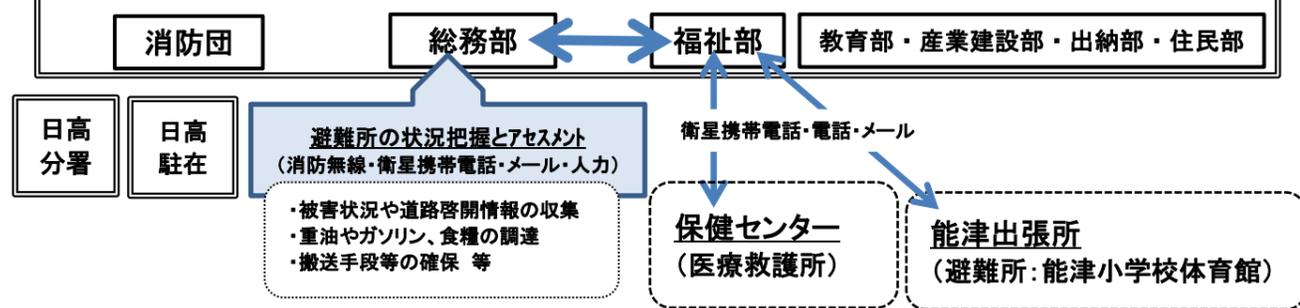
【助かった命をつなぐための対策】

- ① 負傷者の初期評価や応急処置等を行い、重症患者等は迅速に村外の救護病院等へ搬送します。
- ② 村外からの医療支援を早期に受けられるよう活動拠点や受援体制を迅速に整備します。

【命を守る対策の強化（平時の対策強化）】

- ① 村内の医療資源の絶対的不足を踏まえた、住民の自立的備え促進のための啓発を行ないます。
- ② 負傷者数を減らすため、住宅の耐震化や避難訓練への参加など、住民の防災力を高めます。
- ③ 災害急性期の医療救護活動に必要な医療資機材やライフライン、燃料、患者搬送車を確保します。

日高村災害対策本部（日高村役場）



平成28年12月現在

ひ とびとの だ いじないのち か ならずまもる

災害時の救護活動体制

※1: 医療機関アンケート調査結果 (H28. 6)
※2: 医療従事者数()は、日高村在住者数の別掲

日高村の人口 5,178人 (H28. 5. 31現在)

L1→死亡者数 (-) ・避難者数 167人 ・負傷者数 63人 (●6人 ●13人 ●44人)
L2→死亡者数 10人 ・避難者数 512人 ・負傷者数146人 (●15人 ●29人 ●102人)

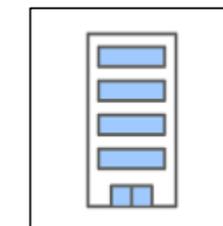
村内の医療資源

無床診療所1・薬局1・店舗販売業1・特別養護老人ホーム1・養護老人ホーム2・救急車両1

北部地区 (能津出張所)

・能津出張所 ・能津小学校体育館(避難所)

自主防災組織や消防団による搬送(車両・船)・ヘリ → さくら病院(救護病院)



能津地区 (8.2%)
・負傷者数(L1) 5人 (●2人 ●3人)
・負傷者数(L2) 12人 (●2人 ●2人 ●8人)

・養護老人ホーム 2施設【医師1名・看護師2名】
・柳瀬診療所(いの町)【医師1名・看護師2名】
火曜13:00~15:00 木曜11:50~13:20 月・火・木曜日13:30~15:30

・孤立地域

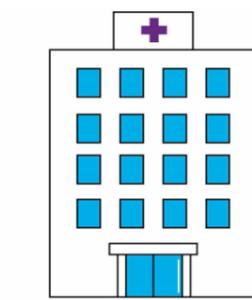
ヘリ搬送

・域外搬送



南部地区 (保健センター)

・高北病院(救護病院)



能津地区以外 (91.8%)
・負傷者数(L1) 58人 (●6人 ●11人 ●41人)
・負傷者数(L2) 134人 (●13人 ●27人 ●94人)
・酸素療法患者 4人
・人工透析患者 12人

医療救護所 (保健センター)



・特別養護老人ホーム【医師1名・看護師2名】
水・木曜14:00~16:00



自主防災組織・消防団による搬送(車両)

・仁淀病院(災害拠点病院)

※ 高北病院への患者搬送が困難な場合は、災害拠点病院である仁淀病院に搬送となる。



福祉避難所



目指す姿の実現に向けた課題

- 【村全体】 ① 住民への普及啓発→村内の医療救護体制の周知・迅速な医療ニーズの集約・応急手当の習熟・避難時のお薬手帳や常備薬の持参
② 近隣市町からの医療従事者(医師・看護師・薬剤師)の応援体制の確立 ③ DMAT等の医療救護チームの早期受入れ要請
④ 中等症患者や重症患者の救護病院への搬送手段の確保 ⑤ 平時からの救護病院との医療救護訓練の実施と体制強化
- 【北部地区】 ① 国道194号線の早期復旧 ② 救護病院の自家発電機の設置と通信手段の確保
③ 仮設医療救護所の整備と医療救護の指揮命令系統の確立
- 【南部地区】 ① 医療救護所で使用する急性期医薬品の備蓄 ② 医薬品集積所の確保と管理体制の整備
③ 通常医療に移行するまでの医療体制の確保 (DMATや医療救護チームの受入れ時の村内指揮命令系統の確立)